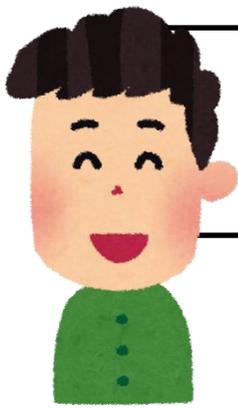


よこはまはっしょう  
横浜発祥!  
クリーニング屋さん



よこはましぎのうぶんかいかん  
横浜市技能文化会館



クリーニング<sup>や</sup>屋さんって  
どんなしごとなんですか？

クリーニング<sup>ぎょうほう</sup>業法<sup>さだ</sup>で定められる<sup>ようざい</sup>溶剤<sup>せんざい</sup>または洗剤<sup>しょう</sup>を使用して<sup>いるい</sup>衣類<sup>とう</sup>等を洗濯<sup>せんたく</sup>する<sup>しごと</sup>お仕事<sup>や</sup>です。クリーニング<sup>や</sup>屋さんは「クリーニング<sup>し</sup>師<sup>しかく</sup>」という<sup>も</sup>資格<sup>ひと</sup>を持った<sup>てんぱ</sup>人が<sup>ひとり</sup>店舗<sup>ひつよう</sup>に一人<sup>げんざい</sup>は必要<sup>おお</sup>になります。現在<sup>み</sup>多く<sup>おおて</sup>見られる<sup>てん</sup>大手<sup>うけつけ</sup>チェーン<sup>ひきわた</sup>の<sup>まどぐち</sup>クリーニング<sup>じっさい</sup>店<sup>こうじょう</sup>は<sup>あつ</sup>受付<sup>せんたく</sup>・引渡<sup>せんたく</sup>しの<sup>せい</sup>窓口<sup>せい</sup>で、<sup>せい</sup>実際<sup>せい</sup>は<sup>せい</sup>クリーニング<sup>せい</sup>工場<sup>せい</sup>に<sup>せい</sup>集め<sup>せい</sup>られて<sup>せい</sup>洗濯<sup>せい</sup>されています。

<sup>こうじょう</sup>工場<sup>さいだいげんき</sup>では<sup>かいか</sup>最大<sup>いるい</sup>限<sup>いるい</sup>機械<sup>いるい</sup>化<sup>いるい</sup>されている<sup>いるい</sup>ため、<sup>いるい</sup>それぞれの<sup>いるい</sup>衣類<sup>いるい</sup>にあっ<sup>いるい</sup>た<sup>いるい</sup>洗濯<sup>いるい</sup>や<sup>いるい</sup>アイロン<sup>いるい</sup>が<sup>いるい</sup>けが<sup>いるい</sup>難<sup>いるい</sup>しく、<sup>いるい</sup>取り<sup>いるい</sup>扱<sup>いるい</sup>え<sup>いるい</sup>ない<sup>いるい</sup>種<sup>いるい</sup>類<sup>いるい</sup>の<sup>いるい</sup>衣類<sup>いるい</sup>等<sup>いるい</sup>が

あります。その<sup>てん</sup>点<sup>ふべん</sup>を<sup>かん</sup>不便<sup>かた</sup>に<sup>むかし</sup>感じ<sup>こじん</sup>ている<sup>こじん</sup>方<sup>こじん</sup>たち<sup>こじん</sup>が、<sup>こじん</sup>昔<sup>こじん</sup>ながら<sup>こじん</sup>の<sup>こじん</sup>個人<sup>こじん</sup>商店<sup>こじん</sup>へ<sup>こじん</sup>依頼<sup>こじん</sup>する<sup>こじん</sup>こと<sup>こじん</sup>が<sup>こじん</sup>多<sup>こじん</sup>くな<sup>こじん</sup>って<sup>こじん</sup>います。個人<sup>こじん</sup>商店<sup>こじん</sup>の<sup>こじん</sup>場合<sup>こじん</sup>、<sup>こじん</sup>1<sup>こじん</sup>着<sup>こじん</sup>1<sup>こじん</sup>

着<sup>こじん</sup>の<sup>こじん</sup>衣類<sup>こじん</sup>に<sup>こじん</sup>合<sup>こじん</sup>った<sup>こじん</sup>洗濯<sup>こじん</sup>と<sup>こじん</sup>アイロン<sup>こじん</sup>が<sup>こじん</sup>け<sup>こじん</sup>で<sup>こじん</sup>仕<sup>こじん</sup>上<sup>こじん</sup>げる<sup>こじん</sup>手<sup>こじん</sup>仕<sup>こじん</sup>事<sup>こじん</sup>です。お

客<sup>こじん</sup>様<sup>こじん</sup>の<sup>こじん</sup>好<sup>こじん</sup>みに<sup>こじん</sup>応<sup>こじん</sup>じて<sup>こじん</sup>仕<sup>こじん</sup>上<sup>こじん</sup>げる<sup>こじん</sup>ので、<sup>こじん</sup>こ<sup>こじん</sup>だ<sup>こじん</sup>わ<sup>こじん</sup>り<sup>こじん</sup>の<sup>こじん</sup>あ<sup>こじん</sup>る<sup>こじん</sup>方<sup>こじん</sup>の<sup>こじん</sup>御<sup>こじん</sup>用<sup>こじん</sup>達<sup>こじん</sup>と

な<sup>こじん</sup>って<sup>こじん</sup>います。





# クリーニング屋さんの技



クリーニング屋さんの技が光るのがアイロンがけです。

その基本はワイシャツだとされています。クリーニング屋さんは1着10分で仕上げるそうです。

しかし、本当にクリーニング屋さんの能力が発揮されるのが汚れに関する化学の知識です。布の種類や汚れの種類(汗じみ、油汚れ等)によって、それに合った洗濯方法や洗剤を使って汚れを落とします。酸性、アルカリ性などを考えて汚れを落としていらっしゃるってご存知でしたか？



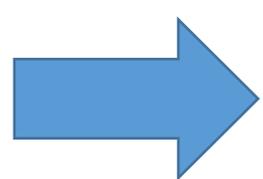
ワイシャツのアイロンがけをしていただきました



裏からアイロンをあてるのが基本です



いちばんむずかしいのがこのえり周りだそうです



キレイにたたんで完成。美しく輝いて見えます

# クリーニング屋さんの道具

★ご家庭には無い珍しくて大きな機械の数々です

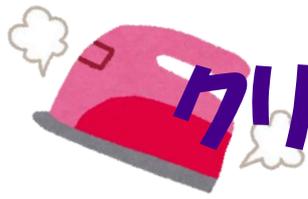


ドライクリーニングの洗濯機。一回に男性用のスーツ上下6着を同時に洗えます。  
石油系の洗剤を使い、油性の汚れを落とします。この機械はティッシュペーパーを入れて洗っても破れずにそのまま洗いあがるそうです。

ドライクリーニングでは落ちない、汗染みなどの水溶性の汚れにはこの水洗の洗濯機です。  
汚れを落とすことだけを考えると、昔ながらの手間のかかるやり方が落ちると言います。



アイロンとアイロン台です。アイロンは電気式で、圧力をかけたスチームを噴射します。  
アイロン台は特殊なもので、台を通して下からバキュームで空気を吸い、洗濯物をアイロン台にぴったり張り付けさせます。



# クリーニング屋さんの歴史



諸説ありますが、1860年前後の横浜で日本初めてのクリーニング店が誕生しています。長崎の外国人屋敷で西洋式の洗濯方法を習得した人物が横浜に移り、開業しました。それまで米のとぎ汁や灰汁を使って揉んだり叩いたりして衣類を洗っていた人々は、西洋式の洗濯方法や石鹼の威力に驚いたといえます。その後外国船が集まる横浜を中心にクリーニング店が増え、山手に駐留している外国人相手の商売を行い、財を成した人もいます。

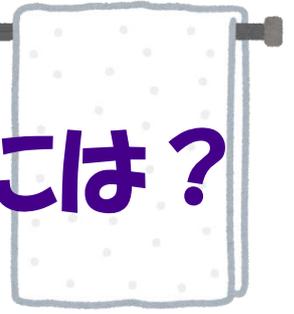
明治時代の文明開化で洋服を着るようになったことから日本のクリーニングの歴史は始まり、大正時代になると洗濯機などが導入され、今のクリーニングの基礎が作られました。

クリーニング発祥の地である横浜のクリーニング屋さんは、文明開化とともに始まった伝統技能を受け継ぐ職人です。





# クリーニング屋さんになるには？



クリーニング屋さんには必ず『クリーニング師』という  
国家資格を持った人がいます。その資格を取るには、  
法律や衣類に関する知識の学科試験、ワイシャツのアイ  
ロンがけや布の繊維を見分ける実技試験に合格する  
必要があります。

試験に合格するためには、実際にクリーニング店で  
働くことが近道です。お店のクリーニング師の資格を持  
った先輩に教えてもらうことができます。県によってはク  
リーニング組合が学校をやっているところもあるようで  
すので、そこで勉強してクリーニング師を目指しましょう。

クリーニング屋さんには、アイロンがけが上手なだけ  
でなく、法律や化学の知識も必要なのです。

☆メ毛☆



よこはましぎのうぶんかかいかんしていかんりしゃ  
**横浜市技能文化会館指定管理者**  
かぶしきがいしゃあしたば はっこう  
**株式会社明日葉 発行**

〒231-0031 よこはましなかくぼんだいちよう 横浜市中区万代町2-4-7

<https://gibun.jp>

2023年版